

予算	款	項	目	決算書	頁
	2	1	13	128	

目 名
文化振興費

事業名称
文化振興事業

1. 概要

目的	多様な芸術・文化交流を育み、市民が芸術に触れる機会の拡充に努め、主体的な市民の文化活動を支援し、内外に発信する	対象	市民等
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○総合文化センター自主事業 市民に文化芸術鑑賞機会を提供するため、幅広い年代に向けた各種事業の実施 自主事業13回 入場者数 5,817人 ○朝倉文夫記念館自主事業 大分県内の作家による展覧会を4回、県内アマチュア作家を対象とした美術コンクールを1回開催した。また、外に出る美術館事業等を実施し朝倉文夫について理解を深めた。 ○大分アジア彫刻展事業 第12回大分アジア彫刻展の作品公募を行い、第一次審査を大分県と共催で実施した。 ○神楽会館自主事業 神楽一般公演、特別公演 12回 入場者数 2,370人 		

臨/経	細事業名称	事業内容（主な経費等）	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	財源内訳				評価
					国・県支出金	市債	その他	一般	
経常	総合文化センター自主事業	自主事業 13回 入場者数 5,817人 委託料	24,032	22,442			5,412	17,030	2
経常	朝倉文夫記念館自主事業	展覧会 5回 需用費	2,352	2,149			583	1,566	3
経常	大分アジア彫刻展事業	大分アジア彫刻展 作品公募 負担金補助及び交付金	3,900	3,900				3,900	2
経常	神楽会館自主事業	公演回数 12回 入場者数 2,370人 委託料	7,429	6,474			2,465	4,009	2
計			37,713	34,965	0	0	8,460	26,505	

2. 指標設定

成果指標	指標名	文化活動の活性化自主事業の数	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	32回			総合計画/後期基本計画において、基本施策(5-2-2)の重要施策としているため			
活動指標	指標	a 総合文化センター自主事業入場者数	b	朝倉記念館鑑賞型事業の入場者	c	朝倉記念館参加型事業の参加者数	d	神楽会館自主事業の入場者数
	数値	目標 6,000人	目標	4,500人	目標	180人	目標	2,400人

3. 実績(上段・実績/下段・達成率)

成果指標名	単位	H23	H24	H25
文化活動の活性化自主事業の数	回	22	41	30
		110.0 %	128.1 %	93.7 %

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 総合文化センター自主事業入場者数	人	7,490	5,080	5,817
		124.8 %	84.7 %	97.0 %
b 朝倉記念館鑑賞型事業の入場者	人	5,701	5,355	3,343
		126.6 %	119.0 %	74.3 %
c 朝倉記念館参加型事業の参加者数	人	158	222	274
		158.0 %	123.3 %	152.2 %
d 神楽会館自主事業の入場者数	人	—	2,368	2,370
		—	98.7 %	98.8 %

4. 課題と対応

課題
公演のジャンル・出演団体・展示会の内容等により入場者数に差がある。
対応(改善点等)
市民が関心を持つような展示会や魅力ある公演を開催する。市ケーブルテレビによる告知や、チラシ、ポスター等で市民や市外に向け事業のPRをする。エイトピアは、指定管理者による運営に移行。

5. 事業費・・・H23～H25(決算額)、H26(予算現額)

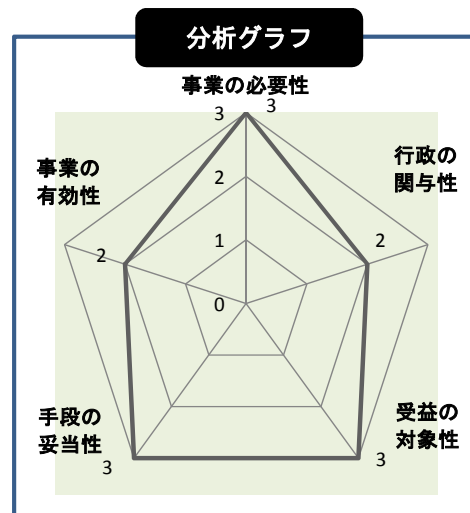
決算額(千円)		H23	H24	H25	H26
		34,795	41,204	34,965	30,631
うち経常経費		29,124	32,199	34,965	16,357
財源内訳	国費		4,499		
	県費	3,351			5,000
	市債				
	その他	7,267	7,335	8,460	5,341
	一般財源	24,177	29,370	26,505	20,290
うち経常		22,957	25,864	26,505	13,461
事業費に係る人件費		15,910	16,316	18,307	11,089
事業費に係る人役		3.70	3.80	4.20	2.50

6. H27年度予算の方向性

方向性
減額
理由
自主事業の経費見直しによる。

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠	
① 事業の必要性	必要性の再確認	3	芸術文化に触れる機会の提供、郷土芸能の保存・継承の支援、制作活動をしている市民に発表の場を提供することは、心豊かな生活をおくるうえで必要である。
② 行政の関与性	責任領域の精査	2	民間によるサービスも可能であるが、利益につながらないものや公共性のあるものは、行政の関与が必要である。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	3	市民を対象にした事業である。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3	公演・展示会の内容を見直すなどで目標に近づける。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	2	回数・入場者数ともに目標に達成していない。入場者については、固定化の傾向にある。魅力のある内容にし新規の入場者が増えるよう努力する必要がある。



8. 内部評価委員会評価(委員会評価)

事業の方向性	評価内容
継続	引き続き、市民を巻き込んだ魅力ある事業を展開し、経営努力をすること。